



あしべつ

市議会だより

2018年
5月1日
No. 7

芦別市議会ホームページ <http://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/gikaijimu/gikai.html>



ともだち何人できるかな？ 小学校入学式 57人の新1年生

4月6日、芦別、上芦別両小学校で入学式が行われました。今年度の新1年生は、芦別小学校(写真左)48人、上芦別小学校(同右)9人の合わせて57人。当日は寒い一日となりましたが、子どもたちは、ちょっぴり緊張しながらも元気いっぱい先生の呼びかけに答えていました。



議長 動 静

芦別市議会議長 日沼 昇光

2月13日、東京で開催された全国市議会議長会 建設運輸委員会 正副委員長会議並びに第161回建設運輸委員会に出席し、建設運輸施策に係る次年度申し送り事項や今後の委員会運営などについて協議しました。

3月19日、荻原市長及び商工会議所坂田会頭と共に美唄市の空知商工信用組合本店に向向き、芦別支店の存続を求める要望書を同組合谷山理事長に提出しましたが、本年11月22日をもって芦別支店を廃止し、赤平支店に統合することが正式に決定しました。

信用金庫や信用組合などの地方の金融機関は、「相互扶助」という不変の基本理念を持つ、地域・職域・業域のための協同組織金融機関としての役割を期待されており、その意味で芦別支店は地域住民の生活に欠くことができない存在であったことや本市中小企業の融資取扱店として地域に密着した金融機関を失うものであることから、長年にわたり地域の振興に重要な役割を果たしてきた歴史を考えると、本市経済に及ぼす影響は計り知れないものがあります。

今後、本市から金融機関の灯が一つも消えることのないよう、議会としても動きを注視してまいります。

主 内 容

- ◎特集 議会報告会について…………… 2～3
- ◎3月定例会代表質問・一般質問…………… 3～6
- ◎3月定例会の議決結果…………… 7
- ◎意見交換会 議員定数について…………… 8

市政問題などで議会報告会開催

悪天候の中、約1000人が参加

芦別市議会は、平成29年度の議会報告会を総務常任委員会（6名）と社会

産業常任委員会（6名）に分担して、2月28日午後6時から、上芦別の啓南多目的研修センターと本町地区生活館で、3月2日午後3時から、であえーる緑幸団地集会所と上芦別多目的研修センターにおいて開催しました。

雪が多く天候不順な中、2日間4会場に約1000人の市民の皆様が足を運んで熱心に報告を聞いていただき、活発な質問や意見が出されました。

の後質疑を行いました。
以下は説明の要旨です。

■平成30年度一般会計予算の概要

芦別市の平成30年度の各会計全体の予算総額は約190億円で、前年度対比では2・1%の減少。そのうち一般会計予算は約108億円で、前年度対比で3・3%の増額となりました。

■芦別観光協会の法人化

観光振興計画(案)では、観光動向や傾向の分析を踏まえて、芦別市がめざす観光の方向性、観光施策のテーマと取組内容が示されました。

観光振興を推進する母体として、今年4月から法人化する観光協会が担い、事務局を市役所内から星の降る里百年記念館に移転。観光協会の専任体制(専務理事を民間から採用)整備のため、人件費と運営費の交付金として2千万円を市は新年度予算で措置しました。

●主な質疑

- 法人化のメリットは。
- 観光協会を独立させたその先は。
- 2千万円は市民を巻き込むために使うのか。

○過去の第3セクターのように見えないところがいっぱい出てくるので。1回の予算で将来独立させられるのか。

○法人化は賛成だが、最終的に赤字が増え、第2・第3のカナディアン、振興公社になるのではないのか。

■芦別温泉星遊館の改修事業

事業は、平成30年度と31年度の2か年の継続事業として予算が計上されており、主な内容は、機械室棟の新設及び露天風呂、浴室、脱衣室、休憩室などの改修です。

▽平成30年度の予算と事業
8880万円(過疎債8750万円
と一般財源130万円)

改修工事監理業務委託、改修工事、
旧芦別温泉棟除却工事
▽平成31年度の予算と事業
4億4957万円(過疎債4億4950万円と一般財源7万円)

改修工事監理業務委託、改修工事
へ「工事工程案」

- ①平成30年10月 工事着工
- ②平成31年8月～12月 屋内改修工事(星遊館休館。休館中は芦別温泉を利用)

③平成31年12月下旬 リニューアルオープン
●主な質疑

○民間委託したとき、星遊館の改修を約束したうえで引き受けてもらったのではないのか。

○改修予算の中に過疎債とあるが、市民には借金ということは分からない。これはどういうもので、どのように返済するのかを説明してほしい。

○温泉の経営管理を委託後、業者自らが2千万円のお金を投資したと聞く。それでもこれだけの費用をかけて改修することが必要か。業者と行政で連携できないか。中身を議会で監視とチエックを。

○富良野の業者にホテルを5年間貸したが、将来赤字で大変になって、5年後に富良野に帰ってしまうのではないのか。議員はどう考えているのか。

○工事期間を短縮できないのか。その間、風呂には入れないのか。

○温泉が今後もしも出続けるといってあるのか。また、泉質は昔と変わっていないか。

○リニューアルは賛成。入館料が高くならずにきれいになれば地元の人も行くと思う。ホテルが無料巡回バスを走らせたら最高(3月12日から予約制にて運行開始)。

■芦別駅前広場再整備事業

長年、JRとバスの乗り継ぎ環境が悪く、平成19年に北海道中央バス(株)の



議会報告会は、第1部は市政に関する報告と質疑を、第2部は議員定数についての意見交換を行いました。報告会では、各議員が分担して配布した資料を基に概要説明、そ

バスターミナル廃止後、滝川・札幌方面は民間ホテルの一部を借用して待合所としていますが、富良野方面は待合所がありません。

中央バスの市内路線撤退後、市内の企業が市内路線を継承し、芦別駅前停留所を設置、JRの協力を得て駅舎を待合所として利用しています。

市民から駅前環境の整備を求める要望が強く、老朽化している駅前歓迎塔を撤去し、駅前に新たに中央バスの市外路線バスを乗り入れて、駅前をJR、バス、タクシー等、地域公共交通の拠点として再整備を行うというものです。

▽事業費 平成30年度 6000万円
(全額過疎債を充当)

▽事業計画期間 平成29年度～31年度の3年間

▽事業の主な内容

- ① 駅前歓迎塔の撤去
- ② バス、タクシープール等の整備
- ③ バス停留所のアーケード設置
- ④ 駅前北駐車場への接続歩道の整備
- ⑤ 駅舎内の整備ほか

● 主な質疑

○ 駅舎内の寒さ対策をお願いしたい。

○ 30年度予算が6千万円で、財源として過疎債を6千万円充てるとなっているが、事業期間が29年度から31年度と聞いていたので、それ以外の事業費はどうなっているのか。

3月定例会代表質問

市政執行方針及び 教育行政執行方針について

3月定例会市議会では、荻原市長の市政執行方針と福島教育長の教育行政執行方針について、4会派が代表質問を行いました。また、一般質問には2名が立ちました。それぞれ要旨を掲載しています。なお、会議録は図書館、市内各コミュニティセンターで閲覧できるほか、市ホームページに掲載しています。

政風会



樋坂 直紀 議員

質問

人口減少に対する考えについて伺う。

答弁

平成27年度に芦別市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定する際に行った将来人口を展望するための分析において、本市では、平成27年以降、若年人口の減少が加速し、高齢者人口も減少する状況となっており、今後もさらに急速に人口減少が加速することが予想されていることから、市として人口減少を最重要課題として捉え、本市への人や資金を増やし、価値を高める施策を総合戦略に盛り込み、官民連携により取り進めてきたところであり、産業の振興や企業誘致、交流人口の拡大、子育て支援や高齢者福祉など、創造力や発信力を強化してまいりたい。

質問

本年度の移住定住の取り組み、移住者に向けた就労支援について伺う。

答弁

新たな移住PR用リーフレットの作成や公式ホームページのリニューアルによる情報発信の充実強化をはじめ、首都圏等で開催される移住PR事業への出展、地域おこし協力隊員の採用などの移住施策に取り組むとともに、持ち家取得奨励金制度と空き家・空き地情報バンク制度の一体的な活用などによる定住促進に向け取り組んでまいりたい。

地方創生推進交付金を活用して江別市内4大学と自治体連携による学生の地域定着事業による市内企業インターンシップ等を継続実施し、就職先として本市への関心を高め、U・Iターン就職奨励制度による支援を行うなど、移住促進に向けて取り組んでまいりたい。

質問

高齢者の方の認知症対策について伺う。

答弁

認知症サポーター養成と活動の支援、認知症初期集中支援チームの設置、及び認知症

人やその家族に対する集いの場の設置や、認知力テストの実施、介護予防体操等の参加を促しており、更には徘徊高齢者の方や家族の方のための位置情報提供サービス機器導入助成を行う等の事業を通じて、「認知症にならない」「認知症の発症を遅らせる」ための対策と、見守り体制の充実強化を推進しているところであります。

質問

中学校の統合と芦別高校の校舎を利用した中高一貫教育の検討について伺う。

答弁

子どもの人数そのものが減少している中、今後における小中学校体制の将来像を描き始める時期は遠い将来のことではないものと認識しているところであります。が、中学校の統合に関する具体的な方向性につきましても、平成23年度に見直しを行った「芦別市立中学校の配置基準」をひとつの目安としつつ、良好な教育環境の維持を念頭に置いて、保護者や地域の皆様からのご意見を十分にお聞きした上で慎重に検討を進めてまいりたい。

中高一貫教育そのものにつきまして、今後の新たな学校運営としての選択肢や検討事項の一つとして捉えておりますが、本市における義務教育9年間を見通した小中一貫教育の実施に向けて、平成30年度から具体的な体制づくりを行うこととしており、まずはその方向性や体制を確立させ、その上で中高一貫教育の形を探っていききたいと

考えているところでありませう。中学校と高校が連携・交流していくことは有意義なことであると考えておりますので、現在の学校体制においてどのような実践的な取り組みができるのか、声別高校とも意見交換をしてみたい。

創政会



田森 良隆 議員

質問

国設スキー場について、このままでは2年後には完全に廃止になるが、市としてどう考えているのか伺う。

答弁

市直営ではない形でのスキー場継続を模索する観点から、北海道を通じて、海外投資家を招へいしたスキー場の視察を実施している。また、道内のスキー場運営会社やスキー関係者への接触を図っている。1月にはフランス、2月にはシンガポールからオファーがありました。市や市民として、子どもたちのためにも、努力をすべきだ。このスキー場に夏冬問わずさまざまなイベントを立ち上げ市としても応援すべきだが、例えば陸上協会

が復活したので関連する大会や子どもたちの雪合戦、ソリ仮装大会等、教育委員会と協力して実施する考えがないか伺う。

答弁

実施の可能性について、教育委員会や陸上協会と協議してまいりたい。

質問

特定健診の受診率が北海道でも最下位の方にランクされているが、上げるための考え方について伺う。

答弁

治療中のデータを健診データとして取り扱う「データ受領」の仕組みを整えることを考えているところです。家庭訪問や事業所訪問等、受診勧奨を拡大することも、血液検査や尿検査で一定の健診項目を満たしている場合や治療中の方の検査データを本人同意のもとに病院から受領する等、健診受診者としてカウントする仕組みを病院や医師会と協議いたします。

質問

受診率の向上を市民が意識するには、町内会にお願いすべきと考える。本市の高齢者比率は現在46%に達している。病気の早期発見、早期治療のためにも、早急に考えるべきだ。連合町内会議等で協力を要請してはどうか。また、受診率が町内対抗に考えるはないか伺う。

答弁

保健師や管理栄養士が地域に入り受診の勧奨を行っています。受診率向上に向けて町内会との更なる連携ができないか研究し

てまいりたい。

質問

ふるさと納税による寄付は、本市のまちづくりを推進するための貴重な財源であり、特産品の販路拡大、市内産業の活性化と地元産品の消費拡大につながる。今回から返礼品の発送業務は法人化される観光協会に委託されるが、少し目線を変えて民間の発想や知恵を借りながら収入確保に努めてはどうか伺う。

答弁

平成30年4月から一般社団法人化する観光協会へ委託することから、返礼品メニューとして地元産品の発掘や体験型メニューの充実等、観光協会と連携を図りながら収入確保に取り組みたい。

質問

本市のスポーツに対する環境をどのように捉えているか伺う。

答弁

現状7つの少年団、中高の部活動の展開、市民のスポーツ技術や体力の向上に向けて、熱意ある指導者がスポーツ振興等を支える力となっている。また、スポーツの拠点施設であるなまこ山総合運動公園やその他の体育施設が整備されており、一定の環境が整っています。

質問

本市の体育施設は合宿に来る人にとっては最高の環境だが、市内の子どもにとっては、大会や合宿が重なるため他市に出向かざるを得ない。バスの値上げにより経費の負担が増えている。また、大会出場補助金に関しては、各競技団体1年に

一度だけの補助になっている。子どもの減少、競技人口の減少、このことにより本市のスポーツ環境は楽観できないのが現状だ。そこで、スポーツ振興基金の補助制度を早急に見直す考えはないか伺う。

答弁

早急に体育協会や関係者と協議をしてみたい。

新星クラブ



瀧 仁美 議員

質問

持続可能なコンパクトシティとは、どの程度の規模をイメージし、どのような施策で行っていくのか伺う。

答弁

本市の人口ビジョンでは、2040年において8000人を維持することを目標としており、その人口規模をイメージしコンパクトな町づくりを進めていきたい。現在、住民の合意を得ながら西芦別地区と頼城地区を対象とした住宅の集約化を実施しております。今後の人口減少による公共施設等の利用需要の変化を見通し、公共施設等の更新、統廃合、長寿命化などを計画的に進めるため、平成28年度から10年間の具体的取組みをまとめた「第1期アクション

3月定例会代表質問

プラン」を策定し、取り組みを進めてあります。今後におきましても、平成32年度からの「第6次芦別市総合計画」の策定に向け、ソフト、ハードの両面から具体的に議論をしていきます。

質問

何う。

今後の新規企業誘致における戦略的な対応について

答弁

本市の自然環境や災害リスクの少なさを、豊富な農林産物、ベアリング関連企業の集積などの地域特性を生かし、精密機械器具や電子機械器具などの製造業、食品関連産業、情報サービス業等を重点的な誘致対象業種として、企業情報提供企業から取得した道内に立地意向を持つ企業リスト等を活用するほか、北海道が主催する「ふるさと北海道応援フォーラム」などの企業誘致関連イベントで構築した人脈や、さっぽろ芦別経済同友会、芦高同窓会など、本市にゆかりのある人脈を活用した中で企業訪問活動を行っていく。また、この度本市に事業所を開設していただいた株式会社ビックボイスの社長におかれては、北海道が委嘱する企業誘致アドバイザーに就任されていることから、同氏の人脈を通じた企業とのつながり作りにも取り組んでいきます。

質問

本市において再犯防止に向けて取り組むことに対し、どのような意義があるか何う。さらには、地方公共団体が国と並んで再犯防止の主体となる意義をどのように

捉えているかについて何う。

答弁

再犯防止のための取り組みを進めることは、市民が犯罪による被害を受けることを防止できることから、安全で安心して生活できることにつながり、意義があるものと考えております。また、地方公共団体が国と並んで再犯防止の主体となる意義については、地方公共団体と国が密接に連携し、犯罪や非行をした者の特性に応じた施策を講じていくことに意義があると捉えております。

質問

移住・定住を促進する上で、お試し住居の施策を進める考えはあるか何う。

答弁

移住・定住を促進するための手法として、短期間、本市での生活を体験していただくためのお試し住居を用意し、取り組んでいく必要性はあるものと認識しております。このため、現在募集を行っている移住定住部門の地域おこし協力隊員を採用した後において、空き家となつている市有住宅を改修するなどして専用住宅の整備を行い、取り進めていきたい。

質問

芦別高校の生徒数の増や間口の維持につながる施策として希望者に対して給食を提供する考えに對して何う。

答弁

芦別高校へ学校給食を提言にありますが、芦別高校の魅力の一つになるものと思われ、また、

生徒数の増や間口の維持にもつながる可能性のある新たな支援策であると考えますので、芦別高校と意見交換をしてまいります。

提案

芦別高校と意見交換を始める前に、ぜひとも市内の中学生及び保護者からの給食に対する意識調査を行っていただきたい。その結果を踏まえて、芦別高校と意見交換をしていただければと思います。

市民連合議員団



小川 政憲 議員

質問

①地域おこし協力隊員の確保と分野②木質チップ原料確保策について何う。

答弁

①水稲就農者とメロン栽培技術者を募集、採用予定②現年度中は、約3000トン確保見込のこと。納入先が芦別温泉だけで売り上げが頭打ちのため、売先を調査中でありませう。

質問

地域未来投資促進法による計画と活用の具体策を伺

答弁

精密機械製造業等ベアリング加工関連分野を対象

として市が基本計画を策定、国の支援制度を活用し、設備投資による生産性の向上や販路開拓を支援、5年間で8億8千万円の付加価値増を目指す内容としています。

質問

①観光協会の財政基盤の確立②カナディアンワールド公園の対応について何う。

答弁

①正会員（議決権有）と、賛助会員（議決権無）に分けて会員募集し、会員には温泉入館優待券をプレゼントする予定。従来同様各町内会に募集協力を依頼、協力金も同様をお願いする②園内施設、設備の老朽化が進んでいて、美観を保てない状況にあり、安全性の確保の点からも施設の維持は限界に達している。今年度中に対応策をお示ししたい。

質問

本市のJR利用促進策の実施について何う。

答弁

一昨年から根室本線対策協議会で検討しており、今年は鉄道再生先進地視察を実施、今後は専用ホームページ開設による沿線自治体の情報発信、企画列車運行、スタンプラリー実施等を検討中だが、これらの取り組みは今後も根室線が維持・存続されることが前提であり、国、道の支援策が具体的に示され、方向が明らかになった段階に改めて内容、時期について協議することとしています。

質問

これからの市立病院をどう考えを伺う。

答弁 安心・安全な市民生活を
守るため強い使命感の下、
必要な医療の提供をしていきます。そ
のために、退職者不補充による人件費
削減、診療材料の共同購入による経費
削減、医師確保による収入の増収等を
講じ、一般会計からの基準外繰入金
(補助金)に頼らない経営を目指しま
す。また、地域完結型医療を目指すた
め、中空知医療圏域の関係者で構成す
る「地域医療構想調整会議」の議論を
踏まえ、地域の一員として役割を担っ
ていかなければならないと考えます。

質問 本部校機能の札幌移転を
表明した「星槎国際高校」
への支援継続の考えを伺う。

答弁 本部校機能が札幌市内へ
移転された後も、引き続き
スクーリング等の拠点として、また、
「学習センター」の一つとして役割を
担うこととなっており、現行の支援策
を継続していきます。

質問 東京オリリンピック・パラ
リンピック開催決定後、合
宿誘致に対するライバルが増加してい
る中、「宿泊交流センター」のリニュー
アルは差別化の絶対条件だと思いが、
考えを伺う。

答弁 平成29年度に宿泊棟屋根
のふき替えを実施。今年度
は、客室全室のカーパーペット取り替え及
びクロス貼り替えを実施し、環境整備
に努めます。

3月定例会一般質問



党 明 公
議員 吉田 博子

質問 芦別市の4大資源につい
て、どのようにブランド化
していくのか。また、4大資源の中の
(食)に対する考え方と、地元産品を
使って作られている「そば寿司」を芦
別特産品として、PRしていつてはど
うか伺う。

答弁 具体的な手法としては、
「星の降る里」というネー
ミングと、芦別ならではの誇れる価値
であり、ブランドそのものと認識する
4大資源を生かし発信性を高め、攻め
の姿勢を持って地域の活性化に結びつ
けていく。また、食に関しては、全て
の食材に力を入れて取り組み、そば寿
司については、可能性についてスター
ライトホテルの社長と懇談し、広める
ためにどういう方策があるのか。また、
4月から観光協会も法人化するため、
芦別の新たな特産品としてできないの
か議論していきます。

質問 専門知識を備えた防災危
機管理専門員を増員した中
で、どのように防災対策に取り組んで
いくのか伺う。

答弁 本年1月1日付で退職自
衛官を「防災・危機管理専
門員」として現在、2名体制で防災担
当業務を担当し、指定避難所の実態把
握を行い、冬期間の使用や地震災害な
どに対応できるかなどの点検の実施や
災害に備えた備蓄計画を作成して防災
対策・防災諸活動に即応する体制の強
化と、市民の安全安心の確保に寄与す
るよう取り組んでいきます。



日本共産党
議員 松井 邦男

質問 地方自治体の基本任務は
住民の福祉増進。カナディ
アン借入金返済の他、市から3億円を超
える貸付金を抱える芦別振興公社清
算のツケが市民生活へ波及。市民サー
ビス切り込みや負担増で住みづらい、
魅力のない市民生活を強いられない
か。市長は「福祉増進」をどう進めて
いくのか伺う。

答弁 夕張の事例を他山の石
として受け止め、市民の理
解と協力によりまちづくりを進めてま
います。人口減少と税収減が予測さ
れ、全体として縮小となるが、充実し

た行政サービスの提供に努めます。

質問 4月から道が市町村国保
財政を管理。国保税は道の
標準保険料税率を用いて平均3.3%
値上げを提案していますが、国は負担
増とならないよう配慮を求めている、
市長に負担軽減策を伺う。

答弁 道から示された税率は、
所得の低い方や多人数世帯
に国保税の負担が増す。本市の国保財
政は危機的状況であり、市の財政状況
も厳しく、軽減はできません。

質問 法改正により非正規で働
く人たちのルールが改善さ
れました。市役所の非正規職員の処遇
策について伺う。

答弁 市には非正規(嘱託、臨
時)職員は、2月現在、男
性13名、女性70名の合計83名。嘱託職
員には産前産後及び育児休暇を付与
し、期末手当は条例で定めれば支給可
能となるが、他市の状況を踏まえて判
断いたします。

質問 市の下水道料金は水道料
金と比べて高い。2人以上
の子育て世帯や人工肛門のストーマ装
着者など水を多く使用する市民に配慮
した福祉的施策について伺う。

答弁 人口減少による収益減収
管理などの費用増加と厳しい下水道事
業運営が想定され、公平な負担増を求
めており、個別条件ごとの料金設定は
困難であります。

3月定例会の議決結果

平成30年第2回市議会（定例会）では、平成30年度各会計予算、平成29年度各会計補正予算、条例制定・改正などが審議されました。議決結果は以下のとおりです。

■全員賛成の議案

議案	件名	結果
条例制定	指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例	原案可決
	議会委員会条例	原案可決
規則制定	議会会議規則	原案可決
条例改正	職員給与条例	原案可決
	議会の議決に付すべき重要な公の施設の利用又は廃止に関する条例	原案可決
	後期高齢者医療に関する条例	原案可決
	総合福祉センター条例	原案可決
	介護保険条例	原案可決
	指定地域密着型サービス事業の人員等の基準に関する条例等	原案可決
	議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例	原案可決
平成29年度補正予算	一般会計補正予算	原案可決
	奨学資金特別会計補正予算	原案可決
	国民健康保険下水道事業特別会計補正予算	原案可決
	下水道事業特別会計補正予算	原案可決
	介護保険事業特別会計補正予算	原案可決
	介護サービス事業特別会計補正予算	原案可決
	後期高齢者医療特別会計補正予算	原案可決
	市立芦別病院事業会計特別会計補正予算	原案可決
	水道事業会計特別会計補正予算	原案可決

議案	件名	結果
平成30年度当初予算	奨学資金特別会計予算	原案可決
	下水道事業	原案可決
	介護サービス事業	原案可決
	市立芦別病院事業会計予算	原案可決
	水道事業会計予算	原案可決
報告案件	監査結果	報告済
意見書	地方公務員法及び地方自治法の一部改正における新たな一般職非常勤職員の処遇改善と雇用安定に関する意見書	原案可決
	道議会地方路線問題調査特別委員会での徹底した審議を求める意見書	原案可決
	生活保護扶助費引き下げに反対する意見書	原案可決
	バリアフリー法の改正及びその円滑な施行を求める意見書	原案可決



■賛否が分かれた議案

○：賛成、×：反対、△：退席、欠：欠席、／：採決なし、議：議長

議案	件名	結果	大橋	瀧	石川	大鎌	北村	樋坂	松井	吉田	小川	池田	田森	日沼
			二朗	仁美	洋一	光純	真	直紀	邦男	博子	政憲	勝利	良隆	昇光
条例改正	国民健康保険条例及び基金条例	原案可決	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	議
平成30年度当初予算	一般会計	原案可決	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	議
	国民健康保険特別会計	原案可決	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	議
	介護保険事業特別会計	原案可決	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	議
	後期高齢者医療特別会計	原案可決	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	議
意見書	新たな森林管理システムの早期実施を求める意見書	原案可決	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	議

議員定数について

市民の皆様から
いただいた主なご意見

今回開催された議会報告会に際し、懇談会という形で議員定数についての意見交換会をさせていただきました。芦別市議会としては、会派代表者会

議において、来期は議員定数、報酬ともに現状維持という方向で議論しております。今回、市民の皆様から議員定数と報酬それぞれの増減の必要性についての見解が述べられました。議会として今議論している議員定数、報酬ともに現状維持という考えは決定したものではありませんので、今回の意見交換会においていただいた貴重な意見を今後の議論に生かしつつ市民の皆様にとって最良の答えを導き出していきたいと考えております。

- ・ 次の選挙時はずっと人口が減っていると思う。削減して備えるべき。
- ・ 定数を増やした方が良いと思う。市民の意見を広く聴くためには多い方がいい。報酬を減額して定数を増やすことも一つの案ではないか。
- ・ 現状のままで良いと思う。報酬の見直しや日当制など検討してほしい。
- ・ 議員報酬は別にして、必要経費はあつてしかるべき。
- ・ 大勢でやることに意義があるので定数が多いほうがいい。
- ・ 芦別の全地域の市民の意見を把握しきれないと思う。
- ・ 少なくとも5期、4期以上は勇退してもらう方法はないか。
- ・ 定年制がないのであれば、人口比率に応じて減らすべき。
- ・ 定数について千人に対して1人の議員でいいといわれるが、私は3千人に1人と聞いている。
- ・ ネットでも情報が入る時代だからこ

- ・ なんと定数はいらぬ。
- ・ 仕事を辞めてまで議員になったことを考えると退職金もなくなるし、辞めたらそれで終わり。そう考えると高くない。
- ・ 定数は今の状態だったら多い。4年ごとしか減らせないから、今後は1万2千人を切るだろう。議員1人千人を目安とすれば、早めに動いてもらわないといけない。
- ・ 少人数で市と対峙するのは大変だと思う。減らすだけではだめ。
- ・ 議員報酬は市長報酬の30%が目安だと放送されていた。結論として、定数は12名でなければ会議にならない。市長の30%ということ、議員は25万円、議長と副議長はそれに見合っただけでプラスする。すると年間1200万円浮く。議員2名を削減すると1千万円。生活できなければ立候補しなければよい。さらに本会議や委員会の日数も考えて減少させ、生業もできるようなしてもらえればと思う。
- ・ 私も定数を減らすのは好きでない。議会を構成するには一定程度の人数が必要で、今はぎりぎりだと思ふ。定数は減らさない方がいい。

議会の動き

平成30年2月～4月中旬

- 【2月】
 - 6日 第1回市議会（臨時会）
 - 16日 総務常任委員会
社会産業常任委員会
 - 27日 空知教育センター組合議会
中空知衛生施設組合議会
 - 28日 石狩川流域下水道組合議会
中空知広域市町村圏組合議会
議会報告会（本町地区生活館、啓南多目的研修センター）
- 【3月】
 - 1日 議会運営委員会
滝川地区広域消防事務組合議会
 - 2日 議会報告会（てあえーる緑泉団地集会所、上芦別多目的研修センター）
 - 8日～26日 第2回市議会（定例会）
 - 14日 総務常任委員会
 - 15日 社会産業常任委員会
 - 16日 予算審査特別委員会
 - 19日・20日 予算審査特別委員会
 - 22日・23日 予算審査特別委員会
- 【4月】
 - 2日 広報広聴委員会
 - 12日 議会改革特別委員会
 - 17日 広報広聴委員会
 - 20日 広報広聴委員会

6月定例議会のお知らせ

- 会期 6月14日(木)～22日(金)
- 日程
 - 14日(木) 本会議（議案の提案）
 - 18日(月) 本会議（一般質問）
 - 19日(火) 本会議（一般質問）
 - 20日(水)・21日(木) 常任委員会
 - 22日(金) 本会議（議案の議決）
- 開会時間 いずれも午前10時から
- ※日程・時間は、議会運営上変更する場合があります

編集後記

荻原市長誕生から1年が経ち、初めての新年度予算編成がなされました。議会報告会においては、主な予算や市政の諸課題についてご説明をし、市民の皆様と議論を深めさせていただきました。ありがとうございました。

3月議会においては、荻原市長の市政執行方針と福島教育長の教育行政執行方針について、4会派から代表質問、一般質問には2名が立ち、一年間進めていくそれぞれの事業について議論を重ね、更に予算審査特別委員会においては、予算の内容について活発に議論が行われました。

議員の残る任期も1年となりましたが、市政の今後については、より一層、厳しい諸課題について議会は心して議論を深め責任ある対応が求められています。また、議会報告会も継続して開催し、市民の皆様と懇談や議論を進めていくことの必要性を感じています。（吉田）

芦別市議会広報広聴委員会

- 委員長 小川政憲
- 副委員長 石川洋一
- 委員 池田勝利、大橋二朗、北村真、松井邦男、吉田博子